

【プログラム1:すごろくトーク

～広げよう友達の輪～】

☆ねらい：すごろくを使い、自分を紹介し合うことを通して、お互いを知り、豊かな人間関係を築くきっかけとする。

《プログラムの概要》

キーワードの例	コミュニケーション
時 間	20分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ（1グループは4～6名がよい）
準備物	サイコロ、すごろくシート（それぞれグループ数）、コマ（人数分）
主な活動	①すごろくを使って自己紹介をする。 ②グループで話題になったこと等を全体に紹介する。
気を付けること	○可能な範囲で話してよいことや、話せないときは「パス」をしてもいいこと等を説明し、安心感をもって参加してもらうようにする。 ○全員が同じように話すことができるようにする。 （例：話す時間は1回につき約30秒程度と決める等） ○聞くときは、あいづちやうなずきを取り入れて聞くように、説明する。
備 考 （アレンジ等）	○書く活動はないので、座談会形式でもできる。
ステップ（中高生 期）編との関連	No9：子育てすごろく～中高Version～

【プログラム1：すごろくトーク～広げよう友達の輪～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。 【1分】 [キーワード] ○コミュニケーション
17分	全体	2. すごろくを使って自己紹介をする。 【14分】 (1) 方法を知る。〈1分〉 ○サイコロの出た目の数だけコマを進め、とまった場所の話題を話す。
	全体	(2) 注意事項を確認する。〈1分〉 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○可能な範囲で話す。 ○場合によっては、「パス」をしてもよい。 ○1人の話が長すぎないようにする。(1回の発言は30秒以内で) ○誰かが話しているときは、しっかり聴く。 (相手を見る、うなずく、微笑む 等も含む) ○誰かが話し終わったら、拍手をする。 </div>
	グループ	(3) グループごとに始める。〈12分〉 ○活動の時間を決め、その時間で進んだ所までとする。
	全体	3. グループで話題になったこと等を他のグループに紹介する。 【3分】
2分	全体	4. まとめ 【2分】 <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> いろいろなことを紹介し合うことで、お互いが身近に感じられるようになったのではないか。 同世代の友達は、喜びや悩みを共有できる。悩んだり不安だったりするときは、一人で抱え込まないで誰かに話してほしい。 これまでより社会が広がる高校時代なので、友達関係を広げ、お互いのつながりを深めてほしい。その気持ちをもつことが大事だ。 初対面の人と話すとき、どのような話題だと会話が弾むかを考えることも大事なことだ。 </div>

【親になったときに考えてもらいたいこと】

- ・身近に自分のことや子どものことを話せる間柄の友人や知人がいることは、自分にとってとても心強いことである。交友関係を築いていくときに、話しやすい話題から話し、お互いの関係づくりをしてほしい。

スタート

まずは名前を。

今、ほしいものは？

グループの人と握手をしよう！

今一番、行ってみたいところは？

自分に似合う色や好きな色は？

好きな食べ物やズムよく3つ紹介しよう

小学生の頃の思い出は？

「幸せ」と感じるときは？

「自立」とはどんなことだと思う？

今、一番やりたいことは？

声を出して笑ってみよう！

イライラムカムカ発散法は？

本日一番の笑顔を見せよう！

ゴール

※誰かが、話題について話をしたら、右隣の人はそのれに関する質問や感想などを、一言言おう。

洗濯（洗う、干す、取り込み、片づけ）、どれもできる？

これからやってみたいことを3つ紹介しよう。

最近、嬉しかったことは？

10年後のあなたは、どうしてる？

今、自分で作れる料理を3つ紹介しよう。

小さい頃の夢は？

ケータイ、スマホ、1日にどのくらい使ってる？

人生で最もこわかった思い出は？

ラッキー2つ進む。あとの人は拍手を！

苦手な食べ物は何？

家庭の中で、あなたの仕事は何？

家族に一番言いたいことは？

自分が頑張っている時、親に紹介する？

異性とつきあっている時、いつ、親に紹介する？

【プログラム2：フレンドリービンゴ ～親しくなろう、仲間を増やそう～】

☆ねらい：フレンドリービンゴゲームを通して、お互いが親しくなろうとする気持ちを高めたり、能動的な傾聴（※注）や適切な自己表現力を身につけようとしたりする。

《プログラムの概要》

キーワードの例	つながり、コミュニケーション
時 間	20分
人 数	何人でもできる（20名以上だとより効果的）
活動形態	全体
準備物	ビンゴカード（人数分）、フリーカード（1人2枚を人数分）
主な活動	①説明を聞き、フレンドリービンゴゲームを行う。 ②感想を出し合う。
気を付けること	○しっかり聴くことや可能な範囲で話してよいこと等を説明し、安心感をもって参加してもらうようにする。 ○できるだけ積極的に自分から声をかけるように説明する。 ○参加者がやり方を理解できるように説明を十分行う。
備 考 （アレンジ等）	○全員が動き回れる広さが必要。
ステップ（中高生 期）編との関連	No10：つながりビンゴ～聴いて、話して、親しくなろう～

※本プログラムで捉える「能動的な傾聴」とは、

「傾聴」とは、相手の話に耳を傾け、相手の思っていることや感じていることを受け止め、理解しようと努めることです。アイコンタクトやあいづち、また、うなずきなどの共感的な表情等の手法を使って相手の話を聴くことをイメージしています。

「能動的な傾聴」とは、相手の思いを受け入れよう、相手の思いにつながろうとするために、前述した手法等に加え、適度な間合いで相手の気持ちを言葉で表すことを取り入れた聴き方をイメージしています。

話し手は、自分（話し手）の気持ち、感情や伝えたいこと等を他者（聞き手）から聞くことによって、気持ちを整理することができたり、「自分のことをわかってもらった」という思いをもつことができると言われています。

【プログラム2：フレンドリービンゴ】

～親しくなろう、仲間を増やそう～

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。【1分】 [キーワード] ○つながり ○コミュニケーション
17分	全体	2. フレンドリービンゴゲームをする。【15分】 (1) 方法を知る。〈3分〉※進行役は、進め方シートを使って説明する。 ・参加者は、ビンゴカード（1枚）フリーカード（2枚）と、鉛筆等を用意する。 ・カードの項目について、参加者同士、話したり聴いたりする。 ビンゴカードには、同じ参加者の名前が入らないようにする。必要に応じてフリーカードを用いる。自分が質問したいところが既に聞かれていた場合、フリーカードを使うと、相手に質問することができる。 ・相手からもらったフリーカードは、その後は自分の分として使える。 ・タテ、ヨコ、ナナメのいずれかがそろったらビンゴとなる。2列ビンゴを作ったら、あがりとなる。 ※あがりになっても続けてもいいし、自分の席にもどってもよい。 ※フリーカードは、あがりになった人にも使える。
	全体	(2) フレンドリービンゴゲームをやってみる。〈12分〉
	全体	3. 感想を全体に紹介する。【2分】
2分	全体	4. まとめ【2分】 <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>自分のことを話したり、友達のことを知ったりすることで、お互いがこれまでより身近に感じられるようになったのではないかな。</p> <p>これまでより行動範囲・生活範囲が広がる高校時代なので、友達関係の輪を広げ、お互いのつながりを深めてほしい。コミュニケーションをとることが得意な人もいれば、苦手な人もいる。初対面の人と話すとき、どのような話題が盛り上がるか、どのような話題は話しづらいかを考えることも大事なことだ。</p> <p>同世代の友達は、喜びや悩みを共有できる。同じ時間を過ごす仲間として、多くの人とのつながりをもってほしい。</p> </div>

【親になったときに考えてもらいたいこと】

- ・身近に自分のことや子どものことを話せる間柄の友人や知人がいることは、自分にとってとても心強いことである。交友関係を築いていくときに、話しやすい話題から話し、お互いの関係づくりをしてほしい。

【フレンドリービンゴ：進め方シート】

《パターンA》

●●さん：こんにちは。私は●●です。1番を教えてください。

◆◆さん：こんにちは。私は◆◆です。いいですよ。
自分のすきなところは、元気がいいところです。

●●さん：ありがとうございました。
私のすきなところは、歌を歌うのがすきなところです。
(私のすきなところは、くよくよしないところです。)

※カードの1番のところに、相手の名前を記入する。そして、握手をしてわかる。

《パターンB》

●●さん：こんにちは。私は●●です。6番を教えてください。

★★さん：こんにちは。私は★★です。
残念ですが、そこはもう答えてしまいました。

●●さん：そうですか、わかりました。

※お互い、何も記入しない。握手をしてわかる。

《パターンC》

●●さん：こんにちは。私は●●です。11番を教えてください。

♪♪さん：こんにちは。私は♪♪です。
残念ですが、そこはもう答えてしまいました。

●●さん：そうですか、それでは、このフリーカードを渡します。
11番を教えてください。

♪♪さん：わかりました。私はアイスクリームが好きです。

●●さん：ありがとうございました。
私のすきな食べ物はカレーです。辛いのが好きです。
※お互いが知り合うために、聞き手も、自分のことも話す。

※●●さんは、11番のところに♪♪さんの名前を記入する。

♪♪さんは、●●さんからフリーカードをもらう。そして、握手をしてわかる。

◎カードの項目それぞれについて、全部が違う参加者の名前になるように
しましょう。

◎フリーカードを効果的に活用しましょう。

※質問したいところが既に質問されていた場合でもフリーカードを使うとその
部分を質問することができます。

フレンドリービンゴカード

1	2	3	4
自分のすきなところは？	家族のいいところは？	小さいとき、どんな子どもだった？	自分の住んでいる地域のいいところは？
名前:	名前:	名前:	名前:
5	6	7	8
ストレス発散法は？	10年後の自分は？	自分を一言で紹介すると？	行ってみたいところは？
名前:	名前:	名前:	名前:
9	10	11	12
やってみたい仕事は？	憧れの人は？	あなたのすきな食べ物？	「親ばなれ」とは？
名前:	名前:	名前:	名前:
13	14	15	16
これからやりたいことは？	最近、嬉しかったことは？	熱中していることは？	紹介したい人は？
名前:	名前:	名前:	名前:

フリーカード1
 ※このフリーカードを使うと
 どこでも質問できます。

フリーカード2
 ※このフリーカードを使うと
 どこでも質問できます。

【プログラム3：イライラ解消法

～見つけたよ、myリラクゼーション～】

☆ねらい：イライラした感情になることは誰にでもあることやその対処法が様々であることに気づき、共感したり自分にできそうなことを身につけようとしたりする。

《プログラムの概要》

キーワードの例	自己認知
時 間	20分
人 数	何人でもできる
活動形態	グループ
準備物	付箋紙（1人10枚程度を人数分）
主な活動	①どんなときにイライラしたか思い出す。 ②イライラ解消法を出し合う。 ③考えたことを紹介する。
気を付けること	○イライラする場面や状況、解消法等は、「人それぞれ違う」ことを話し、安心感をもたせる。
備 考 (アレンジ等)	○風船を1人1個用意し、「イライラした気持ちを風船に吹き込もう。」と投げかけ、実際に風船を膨らます活動を導入で行うこともできる。
ステップ（中高生 期）編との関連	No1：リラックスタイム～力をぬいて～

【プログラム3：イライラ解消法

～見つけたよ、myリラクゼーション～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。【1分】 [キーワード] ○自己認知
17分	個人	2. 最近イライラしたことを思い出す。【10分】 (1) 4～5人のグループになる。最近イライラしたことを思い出し、どんな時にイライラしたか付箋紙にどんどん書く。(3分)
	グループ	(2) 書いたことをグループで出し合う。(7分)
	グループ	3. イライラの解消法を出し合う。【5分】 (1) 自分のイライラ解消法を紹介する。 ※進行役は、その時の状況に応じて、別紙資料を紹介する。
	全体	4. 感想を全体に紹介する。【2分】
2分	全体	5. まとめ【2分】 イライラすることは誰にでもあり、どんな時にイライラするかは人それぞれである。社会生活の範囲が広がり、多くの人との関わりも広がってくると、これまで以上にイライラしたり落ち込んだりすることもある。 その対処法として、笑ったり友達とおしゃべりしたり、何もしない等、いろいろである。いろいろな対処法を試してみると、自分にあった対処法が見つかるだろう。

【親になったときに考えてもらいたいこと】

- ・イライラすることは誰にでもあることだが、そのイライラの解消ができないときに「虐待」という形で子どもにあたってしまう人がいる。そうならないように自分にあったイライラ解消法を知っておくことが必要だ。

イライラ解消法

～見つけたよ、myリラクゼーション～

参考資料

《10カウント法》

- ・カッとした時、腹が立った時に「ゆっくり息を吐く、ゆっくり息を吸う」を繰り返えす。（10数える間繰り返す。その間に冷静さを取り戻す。）

《スマイル法》

- ・とにかくニコッと笑ってみる。歯が見えるように笑う。表情を動かすことによって落ち着き、感情が変わるきっかけとなる。

《バルコニー法》

- ・バルコニーから下を眺めるように、怒っている自分、イライラしている自分を高いところから見ているもう一人の自分をイメージする。高いところにイメージした自分が、イライラしている（怒っている自分）に対して、呼びかけをする。「なぜ、怒っているの？」「今の姿・・・だよ」「相手に嫌なことがあったのかも・・・」「そうイライラしないで、深呼吸して」など。問いかけをしていくうちに事象を客観視し、イライラが治まる。

《声を出す》

- ・家族や友達、先生など、誰かに話を聞いてもらう。
- ・枕に顔をうずめて、大声を出す。誰もいないところで叫ぶ。
- ・（大声で）思いっきり歌う。
- ・洗面器などに水をためて、水の中で大声で叫ぶ。
- ・笑う。

《体を動かす》

- ・散歩、ウォーキング、ジョギング、バットを振る、スイミング等、体を動かす。

《その他》

- ・ゆっくり風呂に入る。
- ・寝る。

【プログラム4:コペルニクスの発想法 ～気になるところはいいところ～】

☆ねらい：いつもと違う方向から物事を考えたり見たりすることを通して、多様性に対する開かれた考えをもち、自尊感情を高めたり、友達とのかかわりの輪を広げようとしたりする。

《プログラムの概要》

キーワードの例	多様な考え方
時 間	25分
人 数	何人でもできる
活動形態	グループ
準備物	付箋紙またはカード（1人10枚程度を人数分）、広めの用紙（グループに1枚）
主な活動	①自分の長所と短所について考える。 ②逆転の発想を知る。 ③考えたことを紹介する。
気を付けること	○逆転の発想を知り考えることを通して、自尊感情を高めようとする気持ちを持たせることが大事。進行役はそのことを踏まえ、言葉かけをする。
備 考 (アレンジ等)	※講座の時間によって、自分の長所や短所を考える活動を時間をかけて行うこともできる。
ステップ（中高生 期）編との関連	No12：プラスの表現～認め・ほめ・励まし・伸ばそう～

※本プログラムで捉える「コペルニクスの発想法」とは、

コペルニクスは、ポーランド出身の天文学者です。コペルニクスは、当時主流だった地球中心説（天動説）を覆す太陽中心説（地動説）を唱えました。

「コペルニクスの発想法」とは、「物事の見方・考え方を逆方向から考えてみよう。」ということです。

【プログラム4：コペルニクスの発想法

～気になるところはいいところ～

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。【1分】 [キーワード] ○多様な考え方
22分		2. 長所と短所について考える。【10分】 (1) 4～5人のグループを作る。自分の「長所(いいところと思うこと)」を1人1つずつ順番に(時計回りに)言う。〈2分〉 ※時間いっぱい、何回も話す。 ※始める前に、人と比べて優れているところではなく、自分自身がいいと思うことを言うように指示する。 (2) 自分の「気になるところ」を付箋紙やカードに書き出す。〈3分〉 (3) 書いたことをグループの人に紹介する。〈5分〉 ※紹介するとき、付箋紙やカードを見せ、広めの用紙に置く。(貼る) 3. 逆転の発想を知る。【12分】 (1) 逆転の発想を知らせる。〈3分〉 「気が強い」→「自分の考えをもっている」 「わがまま」→「自分の意見を通しぬく」 「言い方(言葉)がきつい」→「はっきり言う、正直に言う」 (2) 上記「2(2)」の活動で出し合った自分の「気になるところ」を、逆転の発想を使って考える。グループみんなで考える。〈5分〉 (3) (2)で考えた逆転の発想の中で、全体に紹介したいものを1つ紹介する。〈4分〉
2分	全体	4. まとめ【2分】 誰にでも長所や気になるところがあるが、長所を伸ばしていくことは大事なことだ。自分は●●だ、この人は◆◆だと決めつけるのではなく、気になるところも逆転の発想でとらえたり、プラスの表現(肯定的な言い方、優しい感じのする言い方)で考えたりすることも必要なことである。いろいろな見方、考え方があることを知り、取り入れていくことで、自分や友だち、家族の大切さを認めることになり、それが豊かな関係づくりへとつながるだろう。 ※対人関係においては、自分の言い方、話し方で相手が不愉快な気持ち、イヤな気持ちになっているような場合は、改善していこうとすることも大事。

【親になったときに考えてもらいたいこと】

- ・ある1つの方向からだけの考えではなく、多方面からの見方・考え方があることを知ってほしい。そうすることによって、家族や子どもとのかかわりも深まるだろう。

【プログラム5：メッセージ for me ～自立に向けて～】

☆ねらい：自分の今を見つめ、自立に向けた取組を考えるとともに実践していこうとする気持ちを高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	自立
時 間	25分
人 数	何人でもできる
活動形態	グループ
準備物	ワークシート
主な活動	①自分の「社会的自立度」を見つめる。 ②「親ばなれ」とは、どんなことだと思うか、考える。 ③「10年後の君から、今の君へ」宛てたメッセージを考える。 ④考えたことを紹介する。
気を付けること	○「社会的自立度」の振り返りは、自分自身の振り返りであり、全体に発表したりしないことを事前に知らせると、実態にあった振り返りができると思われる。
備 考 (アレンジ等)	○プログラムNo9：20年予想S～どんなことが待っているかな～とあわせて展開することもできる。
ステップ（中高生 期）編との関連	No14：ファミリーアクション Yes or No～あいさつ、手伝いどうしてる～

【プログラム5：メッセージ for me～自立に向けて～】

時間	形態	講 座 の 流 れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。 【1分】</p> <p>[キーワード] ○自立</p>
22分		<p>2. 自分の「社会的自立度」を見つめる。 【3分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの項目について振り返る。 <p>3. 「親ばなれ」とは、どんなことだと思うか、考える。 【8分】</p> <p>※具体的なことを考えるように、進行役は声をかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数名と意見交換をしたり、全体で意見を紹介したりする。 <p>4. 「10年後の君から、今の君へ」宛てたメッセージを考える。 【11分】</p> <p>(1) ワークシートにメッセージを考える。</p> <p>※「自立」に向けて、「今の自分が取り組むことを考えよう。」と、進行役は、生徒に伝える。</p> <p>(2) 考えたメッセージを紹介する。</p>
2分	全体	<p>5. まとめ 【2分】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; border-radius: 15px;"> <p>今、自分が家族の一員としてやっていることは何だろう。「面倒くさい」「親がやってくれる」「いそがしい」ことを理由として、多くのことを家族にやってもらっている人もいないか。</p> <p>「自立」には、「身辺自立」「社会的自立」「職業自立」がある。数年後の自分自身のために、今、自分にとってどんなことが必要かを考え、続けて取り組んでほしい。</p> </div>

【親になったときに考えてもらいたいこと】

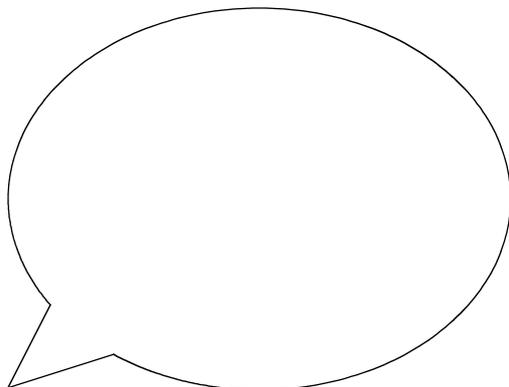
- ・子どもの成長過程に応じて、子どもとのかかわり方も変わってくる。子どもの自立に向けてどうかかわっていくか等、長い見通しを持って考えることが必要だ。子育てにおいて「過保護・過干渉」「放任・自由」とはどのような親子のかかわりをいうのか考えてほしい。

◆「社会的自立度」を振り返ろう。

	項 目	はい	ときどき	いいえ
1	朝から家族にあいさつする			
2	「いただきます」「ごちそうさまでした」を言う			
3	地域の人にあいさつする			
4	相手に聞こえる声であいさつする			
5	毎日決まった家事分担がある (そうじ、洗濯物片づけ、食器洗いなど)			
6	登校や授業開始の時間を守る			
7	提出物等の期限を守る			
8	相手の顔を見て話を聞くことができる			
9	相手の顔を見て話をするすることができる			
10	将来の夢をもっている			

★「親ばなれ」とは、どんなことだと

思う？



♪10年後の君から、今の君へ！



【プログラム6-A:ベストリスナー

～聞き上手で広がる我・輪・和～】

☆ねらい：コミュニケーションの取り方について考え、相手と会話をするときに役立てていこうとする気持ちを高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	コミュニケーション、聞き方
時 間	25分
人 数	何人でもできる
活動形態	2人組
準備物	補助シート（人数分）
主な活動	①2人組で、聞き方のロールプレイをする。2人とも親役と子ども役を体験する。 ②感じたことを紹介する。
気を付けること	○相手の話をしっかり聴くことは、人権尊重の視点からも大事であることを伝える。
備 考 (アレンジ等)	○講座の時間が長くとれる場合は、プログラムNo6-Bの展開例を参考に講座の組み立てを考える。
ステップ（中高生 期）編との関連	No16：やってみよう、聞き方エトセトラ～今日からあなたも聞き上手～

【プログラム6-A : ベストリスナー

～聞き上手で広がる我・輪・和～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。 【1分】 [キーワード] ○コミュニケーション ○聞き方
20分	ペア	2. いろいろな聞き方をやってみる。 【15分】 ※ロールプレイを通して考える。 (1) 2人組になり、親役と子ども役に分かれる。 (2) 下記のア～ウをやってみる。 ア：聞き手が他のことをしながら聞いている場合 イ：まだ話の途中なのに、聞き手が話を切ってしまった場合 ウ：聞き手が、自分の話より先に、「自分の時は～～だった」「◆◆になるんでしょ」と言ってしまう場合 (3) 親役と子ども役を交代する。
	全体	3. 感じたことを出し合う。 【5分】
4分	全体	4. まとめ 【4分】 <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 話をする時、聞き手の姿勢、態度によって、話し手の気分が左右されることがある。話し手が、「話してよかった。」と感じる聴き方（能動的な傾聴）をしようとするのが大事である。 これからもっと社会性が広がっていくので、時間・場所・場合（TPO）に応じた話の聞き方、話し方を意識していくのが大事である。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 話の聞き方のポイント5 ★うなづく ★あいづち ★アイコンタクト（相手を見る） ★笑顔 ★質問する </div> ◇TPOに応じた聞き方の例 例 あいづち { <ul style="list-style-type: none"> ・友達、同世代、後輩との会話の場合 ・先生、先輩、目上の人との会話の場合

【親になったときに考えてもらいたいこと】

- ・聞き手（親）の聞き方によって、話し手（子ども）が受ける印象に違いがある。聞き手（親）は、話し手（子ども）が話しやすい雰囲気や態度を作ることが大事であり、その一つ一つの積み重ねは、親子の関係づくりへ連動している。

◇ロールプレイングの例

ア：聞き手が他のことをしながら聞いている場合

子ども：ただいま。

保護者：おかえり。

子ども：今日、この前あった小テストが返ってきたんだ。思っていたよりいい結果でね。とてもよかったって思っているんだ。すごいでしょ。

保護者：※携帯をさわったり、本を読んだりしながら、話を聞く。

そう、よかったね。

子ども：(自分で考えたセリフを言おう)

イ：まだ話の途中なのに、聞き手が話を切ってしまった場合

場面：先日あった小テストの結果が返され、思ったよりよくなかったことを話す場面。

子どもは、範囲を自分なりに勉強したつもりではあった。自分でも、もうちょっといい結果になると思っていた。

子ども：ただいま。

保護者：おかえり。

子ども：今日、この前あった小テストが返ってきたんだ。

保護者：えっ。そうなの。結果どうだった？

子ども：うーん。あんまりよくなかったんだ。★テストの前には勉強したから、もっとできると思ってたのに……。だから次は、もっと頑張ろうと思っているんだ。

保護者：※子どもの話の途中（★の所から）から言い始める

どうしてできなかったの。勉強がたりないからよ。携帯ばかり触っていたからじゃない。次はいい結果になるようにがんばりなさいよ。

子ども：(自分で考えたセリフを言おう)

ウ：聞き手が、自分の話より先に、「自分の時は～～だった」とか、「◆◆になるんでしょ」と言ってしまう場合

場面：先日あった小テストの結果が返され、思ったよりよくなかったことを話す場面。

子どもは、範囲を自分なりに勉強したつもりではあった。自分でも、もうちょっといい結果になると思っていた。

子ども：ただいま。

保護者：おかえり。

子ども：今日、この前あった小テストが返ってきたんだ。

保護者：えっ。そうなの。結果どうだった？

子ども：うーん。あんまりよくなかったんだ。テストの前には勉強したから、もっとできたと思ってたんだ。

保護者：そんな結果だったら、補習を受けたり追試になったりするわよ。お母さんの時は、小テストでも結果が悪かったら、親から怒られたり宿題が増えたり大変だったのよ。追試いつなの。もっと真剣に勉強しなくっちゃ。

子ども：追試とかないよ。

(自分で考えたセリフを言おう)

【プログラム6-B:ベストリスナー

～聞き上手で広がる我・輪・和～】

☆ねらい：コミュニケーションの取り方について考え、相手と会話をするときに役立てていこうとする気持ちを高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	コミュニケーション、聞き方
時 間	40分
人 数	何人でもできる
活動形態	2人組
準備物	補助シート（人数分）、付箋紙（1人10枚程度を人数分）、A3用紙（グループに1枚）
主な活動	①2人組で、聞き方のロールプレイをする。2人とも親役と子ども役を体験する。 ②会話をするとき特に聞くときの大事なポイントについて考える。 ③考えたことやグループで話題になったことを紹介する。
気を付けること	○相手の話をしっかり聴くことは、人権尊重の視点からも大事であることを伝える。
備 考 （アレンジ等）	○講座の時間が短い場合は、プログラムNo6-Aの展開例を参考に講座の組み立てを考える。
ステップ（中高生 期）編との関連	No16：やってみよう、聴き方エトセトラ～今日からあなたも聞き上手～

【プログラム6-B：ベストリスナー
～聞き上手で広がる我・輪・和～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。 [キーワード] ○コミュニケーション ○聞き方 【1分】
35分	ペア	2. いろいろな聞き方をやってみる。 【15分】 ※ロールプレイを通して考える。 (1) 2人組になり、親役と子ども役に分かれる。 (2) 下記のア～ウをやってみる。 ア：聞き手が他のことをしながら聞いている場合 イ：まだ話の途中なのに、聞き手が話を切ってしまった場合 ウ：聞き手が、自分の話より先に、「自分の時は～～だった」「◆◆になるんでしょ」と言ってしまう場合
	全体	(3) 親役と子ども役を交代する。 (4) 感じたことを出し合う。 3. 会話をするとき特に聴くときの大事なポイントについて考える。 【20分】 ※ロールプレイで感じたこととつなげて考える。 (1) 大事なポイントだと思うことを付箋紙に書き出す。 (2) グループで意見を出し合う。 (3) A3用紙に付箋紙を出していく。類似事項は重ねる。
4分	全体	4. グループの中で多かった意見などを全体に紹介する。 5. まとめ 【4分】 話をする時、聞き手の姿勢、態度によって、話し手の気分が左右されることがある。話し手が、「話してよかった。」と感じる聴き方（能動的な傾聴）をしようとするのが大事である。 これからもっと社会性が広がっていくので、時間・場所・場合（TPO）に応じた話の聞き方、話し方を意識していくことが大事である。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>話の聞き方のポイント5</p> <p>★うなづく ★あいづち ★アイコンタクト（相手を見る）</p> <p>★笑顔 ★質問する</p> </div> <p>◇TPOに応じた聞き方の例</p> <p>例 あいづち { ・友達、同世代、後輩との会話の場合 ・先生、先輩、目上の人との会話の場合</p>

【親になったときに考えてもらいたいこと】

- ・聞き手（親）の聞き方によって、話し手（子ども）が受ける印象に違いがある。聞き手（親）は、話し手（子ども）が話しやすい雰囲気や態度を作ることが大事。その1つ1つの積み重ねは、親子の関係づくりへ連動している。

【プログラム7：うれし、恥ずかし、顔文字づくり ～自分の気持ちに向き合って～】

☆ねらい：自分の様々な感情とその感情を引き起こす場面を知ることを通して、客観的に自己を見つめ、周りの人とのかかわり方を考える。

《プログラムの概要》

キーワードの例	喜怒哀楽
時 間	30分
人 数	何人でもできる
活動形態	個人＋グループ
準備物	ワークシート（人数分）
主な活動	①ポジティブな気持ちになる時、ネガティブな気持ちになる時について考える。 ②ポジティブな気持ちやネガティブな気持ちの時、人とのかかわり方について考える。 ③話題になったことを紹介する。
気を付けること	○感情の起伏は誰にでもあることや、どんなときにイライラを感じたりするかは個人差があることを知らせる。
備 考 (アレンジ等)	○プログラムNo3：イライラ解消法～見つけたよ、myリラクゼーション～とあわせて展開することもできる。
ステップ（中高生 期）編との関連	No20：感情ランキング～子どもの気持ちになってみよう～

【プログラム7：うれし、恥ずかし、顔文字づくり
～自分の気持ちに向き合って～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。 【1分】 〔キーワード〕 ○喜怒哀楽
27分	個人 グループ	2. ポジティブな気持ち（嬉しい、楽しい、幸せ、愉快など）になる時と、ネガティブな気持ち（悲しい、苦しい、嫌だ、イライラするなど）になる時について考える。 【13分】 (1) どのような時にそのような気持ちになるか考え、書き出す。 (2) ポジティブな気持ち、ネガティブな気持ちの時の表情を書く。 ※自分で考えてもいいし、例示の中から選んでもいい。 (3) (1) で書き出したものの中から1番ポジティブな気持ちになる時と1番ネガティブな気持ちになる時を選び、グループの人に紹介する。
	グループ	3. ポジティブな気持ちやネガティブな気持ちの時人との、関わり方についてグループで意見を交換したり考えたりする。 【11分】 (1) 次の2項目について考える。 ア：ネガティブな気持ちの時、自分は家族（親）にどのような接し方をしているか。 イ：様々な人とのかかわりが広がっていくこれから、どんなことが大事だと思うか。
	全体	4. グループの中で話題になったことを全体に紹介する。 【3分】
2分	全体	5. まとめ 【2分】 思春期の頃は、いろいろなことで嬉しい気持ちになったり、落ち込んだり、自分でもよくはわからないがイライラしたりすることがある。これは成長過程の一つであり、多くの人たちが経験する。 自分がどんな時にどんな感情になるのかなど、客観的に見つめ、自分自身を知ることも大事なことだ。 これから、今までより人間関係が広がっていく中で、自分の感情をコントロールしながら、様々な人とかかわっていくだろう。それに向けて、今、身近な人とのかかわり方を見つめ、お互いに認め合う接し方やかかわり方をしていくことが大事だ。

【親になったときに考えてもらいたいこと】

- ・子育て四訓として言われていることに、「乳児期はしっかり肌を離すな、幼児は肌を離せ手を離すな、少年は手を離せ目を離すな、青年は目を離せ心を離すな」と言われている。乳幼児期を過ぎると、子どもの交友関係や家庭外での生活等を直接全部知るのは難しいので、日頃からの親子のコミュニケーションを大事にしてほしい。

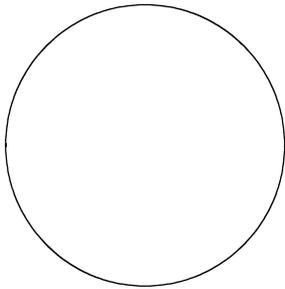
【うれし、恥ずかし、顔文字づくり～自分の気持ちに向き合って～】

◆ ポジティブな気持ちになる時

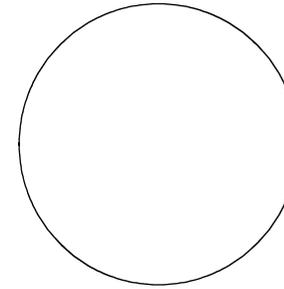
◆ ネガティブな気持ちになる時

(^_^) (^) (^o^) (*^_^*) (^_^;) (^^;) (-_-;) (^_^)v! (^^)! (^O^)
(>_<) (*_*) (@_@) (?_?) (= _ =) (-_-) [TOT] (+_+) (>人<)

ポジティブな表情



ネガティブな表情



★考えよう！（グループの人の考えを聞こう！自分の考えを話そう！）

- ① ネガティブな気持ちの時、自分は家族（親）にどのような接し方をしていますか。
- ② 様々な人とのかかわりが広がっていくこれから、どんなことが大事だと思いますか。

【プログラム8：理想の親子

～子どもの立場と親の立場～】

☆ねらい：親の立場に立って子どもへの思いを考えるを通して、家族関係や親子のかかわりについて考え、よりよい親子関係をつくろうとする気持ちを高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	親の役割
時 間	30分
人 数	何人でもできる
活動形態	ペア＋グループ
準備物	ワークシート（人数分）
主な活動	①エピソードをもとに、親子関係を子どもの立場で考える。 ②エピソードをもとに、親子関係を親の立場で考える。 ③話題になったことを紹介する。
気を付けること	○様々な親子関係があることを進行役が十分把握しておく。
備 考 (アレンジ等)	○授業参観等を活用して、親子一緒に取り組むこともできる。
ステップ（中高生 期）編との関連	No21：親の役割3か条～親の目・子の目～

【プログラム8：理想の親子～子どもの立場と親の立場～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。 【1分】 [キーワード] ○親の役割
27分	ペア	2. エピソードをもとに、親子関係を子どもの立場で考える。 【7分】 ○「考えよう」ア、イをする。 (1) アを考え、2人組でロールプレイをする。 (2) イを考え、グループで紹介する。
	グループ	3. エピソードをもとに、親子関係を親の立場で考える。 【10分】 (1) ウを考え、グループで意見交換をする。 (2) エ、オを考え、グループで意見交換をする。 ※活動3は、グループで進行係を決め各グループごとに進めるように指示する。
	全体	4. 特に話題になったことを全体に紹介する。 【10分】
2分	全体	5. まとめ 【2分】 <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>自分なりの考えをもっている高校生、まだまだ子どものことを心配する親（保護者）。そのバランスで、親のかかわりをうっとうしく思ったりしている人もいるだろう。</p> <p>いずれは自分も「親」になる可能性があるので、「親」の気持ちをわかろうとすることや、親子の関係を見つめ、よりよい関係をつくっていかうとすることが大事だ。</p> </div>

【親になったときに考えてもらいたいこと】

- ・親子の絆は、子どもがいくつになっても大事にしたいものの一つだ。「頑張った」「よかった」「ありがとう」と子どもを認め、ほめ、励ますと同時に、「ダメなこととはダメ」とはっきり子どもに言うことが大事。

◇次のようなエピソードがあります。

《エピソード》

① あなたは高校生です。今日、帰るとき試験も近いので、友達の家を集まって勉強しようということになりました。メンバーはいつもの仲間5人です。

あなたは、このことを家に連絡しました。

あなた：「今日、友達の家で勉強して帰る。夕食も済ませてくる。

帰りがちょっと遅くなる。」

親（保護者）：「えっ。誰のところに誰と行くの？何時頃帰るの？」

あなた：「★★の家。●●たち、いつものメンバー。帰りは9時過ぎぐらいかな。じゃあ。」

親（保護者）：「・・・・・・・・」

② 友達と過ごした時間は楽しくあっという間に時間が過ぎました。★★の家を出て、●●たちとコンビニに寄ったりしながら帰りました。気付くと10時を過ぎ、携帯電話に家から着信やメールがあっていました。

あなた：「ただいま」

親（保護者）：「今、何時だと思っているの？電話もしたけど出ないし、メールにも返信しない。一体何してたの？」

あなた：・・・・・・・・



考えよう



ア：あなたはこのあと、親に、何と言うと思いますか？

隣の人と、親役と子ども役にわかれて、会話を続けてみましょう。

イ：このような時、あなたは、親（保護者）にどのような態度、行動、声かけをしてほしいですか？

ウ：あなたが、親になってこのエピソードのような状況にいたら、あなたは子どもに何と言うと思いますか？

エ：あなたが、「親」になった時、どんな「親」になりたいですか？具体的に想像してみましょう。

オ：あなたにとって、「親」はどんな存在ですか？「親」の役割はどんなことだと思いますか？

【プログラム9：20年予想S

～どんなことが待っているかな～】

☆ねらい：これからの自分自身の見通し（人生設計）を考えることを通して、自立への足がかりを見つめ、実践していこうとする気持ちを高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	人生の見通し・自立
時 間	30分
人 数	何人でもできる
活動形態	個人＋グループ
準備物	ワークシート（人数分）
主な活動	①「家庭」を持つ意味について考える。 ②「20年予想S」を考える。 ③「自分の将来設計に向けてやっていくこと」を考える。 ④話題になったことを紹介する。
気を付けること	○将来設計を考える活動は、他と比べるのではなく自分自身の見通しを持つことを大事にしたものであることを伝える。
備 考 (アレンジ等)	○プログラムNo5：メッセージ for me～自立に向けて～とあわせて展開することもできる。
ステップ（中高生 期）編との関連	No17：未来予想S～10年後の子どもとわたし～

【プログラム9：20年予想S～どんなことが待っているかな～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。【1分】 [キーワード] ○人生の見通し・自立
27分	個人グループ	2. 「家庭」を持つ意味について考える。【6分】 (1) 考えをシートに記入する。 (2) 意見交換をする。
	個人	3. 「20年予想S」の人生設計曲線を考える。【9分】 (1) 方法を知る。 ○これからの20年間でどんな出来事があり、どんな気持ちになりそうかを考え、シートに記入する。 ・出来事は、「就職」「結婚」の例示の言葉を手がかりに考えさせる。
	個人グループ	(2) シートに記入する。 (3) シートへの記入が早く終わったら、互いにシートを見せ合う。
	個人全体	4. 「自分の将来設計に向けてやっていくこと」を考える。【10分】 (1) シートに記入する。 ※「勉強を頑張る」「大学進学する」等より、「毎日○時間学習する」「自分の洗濯物は自分で片づける」「家族にもあいさつをする」等の、より具体的で日常生活に結びつく行動がよい。 (2) グループで意見交換をする。
	全体	5. 特に話題になったことを全体に紹介する。【2分】
2分	全体	6. まとめ【2分】 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">人生の大きな転換期となるこれからの20年間で、自分はどう生きていきたいかを考えることは大切なことである。 また、自立に向けて「今やっておくことや、これからやっていくことはどんなことか」ということを考え、できる範囲で取り組んでいくことも大切なことである。</div>

【親になったときに考えてもらいたいこと】

- ・これまでの家族とは別に、新しく自分で家庭をもつとき、自分の生活とともに、家族（子ども）の生活も同時進行する。親になることでの喜び、悲しみ、不安などいろいろな感情があるが、家庭のよさ、家族のよさを、自分から今度はさらに次の世代へと継承して行ってほしい。

♪ 20年予想S

◆これから起こるであろう出来事を書き込もう。
例以外の出来事も考えて書いてみよう。
例：就職 結婚 進学 第1子誕生
第2子誕生 家を建てる など

◆「家庭」を持つ意味は何だと思う？

◆自分の将来設計（自立）に向けて、やっていくことを5つ書こう。

【プログラム10：高校生のハローワーク

～自分の進路を見つめてみよう～】

☆ねらい：高校卒業後の進路を考えることを通して、働くことの意義を意識しようとする。

《プログラムの概要》

キーワードの例	進路選択と自立
時 間	30分
人 数	何人でもできる
活動形態	グループ＋個人
準備物	ワークシート（人数分）
主な活動	①「働く」ことはどんなことか考える。 ②高校卒業後の進路について、エピソードをもとに考える。 ③話題になったことを紹介する。
気を付けること	○さまざまな職業観を大切にする。家庭内の仕事分担も生活していくうえで大事であることや男女共同参画の視点も大切にする。
備 考 (アレンジ等)	○プログラムNo5：メッセージ for me～自立に向けて～とあわせて展開することもできる。
ステップ（中高生期）編との関連	No18：子どもの夢サポート～進路選択と親のかかわり～

【プログラム10：高校生のハローワーク
～自分の進路を見つめてみよう～】

時間	形態	講 座 の 流 れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。 【1分】 [キーワード] ○進路選択と自立
27分	グループ 全体	2. 「働く」ことはどんなことか考える。 【11分】 (1) 「職業」や「仕事」の言葉から考えられることを、グループで自由に出し合う。 (2) 話題になったことを全体に紹介する。
	個人 グループ	3. 高校卒業後の進路について、エピソードをもとに考える。 【14分】 (1) 自分の考えをシートに記入する。 (2) グループで意見を紹介する。 ※ワークシートの「家庭の中の仕事」の振り返りは、裏面に印刷し、本講座終了後や家庭で取り組ませ、家族の一員としての仕事（家事分担）の意識の向上を図る。
	全体	4. 特に話題になったことを全体に紹介する。 【2分】
2分	全体	5. まとめ 【2分】 高校を卒業する時点で自分自身の人生の大きな進路選択が待っている。そのときにどうしようと戸惑うのではなく、現時点でもどうしたいのかという職業観を持つことは大事なことだ。 また、家庭の中の仕事を分担していくことも、家族の一員として大事なことであるし、自立に向けて家庭で取り組んでおくことも大事なことだ。

【親になったときに考えてもらいたいこと】

- ・子どもはいつか自立をする（職業自立）。その時に向けて、「身辺自立」「社会的自立」を育む取組を、子どもの成長過程に応じて少しずつ継続していくことが大事。家庭の中の仕事（食事づくり、洗濯、掃除など）は、家族の誰かの役割ではなく、みんなで分担しようとするのが大事。

(o)自分の考えを
自由に話そう。

テーマ

「職業」や「仕事」の言葉から
考えられるもの

◇高校生の友達が集まり、これからのことを話しています。

このとき、「あなたは？」と聞かれました。何と答えますか？

まりさん

高校卒業したら、大学進学したいな。そして、専門をいかした職につきたい。

とおるさん

家がお店をやっているから、家の後を継ぐんだ。親も期待してるし、自分でもやりたいんだ。

みちこさん

親から離れて1人暮らしをしたいから、就職したいな。

ひろしさん

高校卒業したら就職したいけど、家から通えるところがいいな。食事とか心配いらないから。

たけしさん

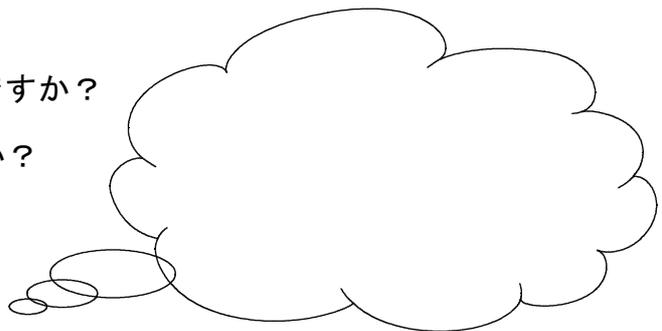
まだどうしたいか決めてないから、とりあえず大学に進学して、そのあと考えよう。

さちこさん

すきな人がいるから早く結婚したいな。それまでは、家事手伝いもいいな。

Q：あなたは、どの人の考えに近いですか？

どんなところが共感できましたか？



◇家庭の中の仕事をみてみよう。

家庭の中のいろいろな仕事、誰がやっているだろう？

下の項目について、チェックをしてみよう。

◎ 1週間に4日以上する ○ 1週間に2～3日する

	項 目	自分	その他の家族				
1	朝食をつくる						
2	朝食の片づけをする						
3	洗濯をする（洗って干す）						
4	居間、リビング、台所（家族が共同で使う空間）の掃除をする						
5	トイレの掃除をする						
6	洗濯物を取り込む、片づける						
7	夕食を作る						
8	夕食の片づけをする						
9	お風呂の用意をする						
10	ゴミ出しをする						

※気付いたことを書こう！

【プログラム11：悩み熟議 ～親の立場で考えてみよう～】

☆ねらい：保護者のもつ悩みに答える活動を通して、保護者の思いを理解しようとする気持ちをもつとともに、よりよい親子のかかわ方を考える。

《プログラムの概要》

キーワードの例	親子関係
時 間	50分
人 数	12人以上（9人でもできる）
活動形態	グループ（1グループは4人がよいが、9人の場合は1グループは3人になる）
準備物	悩みリスト（人数分）、ストップウォッチ（進行用1個）、机上札（A B C D）→それぞれグループ数
主な活動	①「悩みリスト」をもとに、相談者になったりアドバイザーになったりする。 ②グループ替えをし、「悩みリスト」をもとに、相談者になったりアドバイザーになったりする。 ③保護者とのかかわり方を考える。 ④話題になったことを紹介する。
気を付けること	○「悩み」リストは、学校の実態に応じたものを用いるとより効果的である。しかし、個人が特定できる悩みは用いないようにする。
備 考 （アレンジ等）	○話の聞き方については、プログラムNo.6：「ベストリスナー～聞き上手で広がる我・輪・和～」と、関連を図ると効果的である。
ステップ（中高生 期）編との関連	No.22：聞いて、聞いて、わたしの悩み～子どもの異性とのつきあい方～

【プログラム11：悩み熟議～親の立場で考えてみよう～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。 【1分】 [キーワード] ○親子関係
47分	全体	2. 「悩みリスト」をもとに相談者になったりアドバイザーになったりする。 【25分】 (1) 方法を知る。 <2分> ①進行役が相談者Aを紹介する。 ②Aの相談に対して、B, C, Dは一人ずつ悩み解決に向けたアドバイスを1分程度話す。(相談者1分+1分×3人+予備) = 5分 ③進行役が相談者Bを紹介する。 ④Bの相談に対して、C, D, Aは一人ずつ悩み解決に向けたアドバイスを1分程度話す。(相談者1分+1分×3人+予備) = 5分 ⑤このように、C, DもA, Bと同じように行う。 (2) 聞くときの配慮事項を確認する。 <1分> ・相手を見てうなずきながら聴くなど、聴き方を工夫する。 (3) グループ内でやってみる。 <22分>
	グループ	3. グループ替えを行う。(同じ机上札の人で集まる。) 【1分】
	グループ	4. アドバイスされたことを紹介しあう。 【6分】
	全体	5. 保護者に自分の考えや行動・気持ちをわかってもらうためには、どのようなかわり方をすればいいかを考える 【10分】
		6. グループの代表が、特に印象に残った意見を紹介する。 【5分】
2分	全体	7. まとめ 【2分】 保護者は子どもが何歳になってもいつも心配している。このことをしっかり認識することが大事だ。 高校生になり、生活・行動範囲がこれまでより広がり、保護者の知らない部分(友達のことや学校生活等)が増えている。異性との関わりについては特に心配する現状がある。出会い系サイトでの被害や10代の人工妊娠中絶率や性感染症罹患率等などがある。 保護者が子どもを、子どもが保護者を、お互いに信頼し認め合う関係をつくるには、日頃からのコミュニケーションを大事にすることが必要だ。

【親になったときに考えてもらいたいこと】

- ・「親子の絆」は子どもがいくつになっても大事にしたいことだ。日頃から、「頑張った」「よかった」「ありがとう」と子どもを認め、ほめ、励ますことと同時に、「ダメなことはダメ」とはっきり子どもに言うことが大事。また、子どものことを話せる親同士のつながりをもってほしい。

【悩み熟議～親の立場で考えてみよう！】

◇悩みリスト

《相談者A》（高校1年生の男子をもつ父）

携帯電話を持たせるときに、「自分の携帯代は自分で払うように・・・。」と、子どもと約束をした。そのためアルバイトを始めたのだが、帰宅時間は遅いし、ごはんを食べているときでも携帯電話を離さない。変なサイトを使っているようではないが、携帯代も月2万円ぐらいかかっている。最近、だんだんとおしゃれや異性に興味をもっているようだし、いつ変なサイトを利用するかもわからない。携帯代を払う約束で始めたバイトだが、このまま続けさせていいか悩んでいる。

《相談者B》（高校2年生の女子をもつ母）

高校生になっておつきあいしている彼がいるらしく、服装や体型をととても気にするようになった。相手がどんな人なのか聞いても教えてくれない。あるとき、娘が親密に肩を寄せ合っている写真を偶然に見てしまったが、見なかったことにし、何も言わなかった。同じ頃、娘が、「友だちのところに泊まりに行きたい」と言った。とりあえず思いつくままの理由で外泊はさせなかったが、彼とのつきあい方がどんどんエスカレートするのではないかと心配している。

《相談者C》（中学2年生の女子をもつ母）

子どもの進路のことで悩んでいる。子どもは小さい子が好きで、近所の子や親戚の子などよくかわいがっている。それはいいことだと思うが、娘は、「高校は行ってもいいけど、早く自分の子どもがほしい。『友だち親子』をしたい。」と言う。交友関係は広く、男女を問わず友だちと遊んでいる。学習は今までとあまりかわらずやっているようで、特に変わったことはないと思う。進路選択はまだ先のことだが、もっと現実的な進路を考えてほしいと思っている。こんなとき子どもにどんな話をすればいいのか教えてほしい。

《相談者D》（中学2年生の男子をもつ母）

この前息子の部屋を片づけていたら、グラビア雑誌が出てきた。最近、好きな女の子がいるらしく、よく部屋で携帯電話でしゃべっている。何を話しているのかわからず、気になっている。眉を整えたりおしゃれに興味をもったりしている。これも子どもの成長過程の1つだと思うが、グラビア雑誌を見て子どもを思うと複雑な気持ちにもなり、どんな女の子とつきあっているのか、どんなつきあい方をしているのか、心配はつきない。どうするといいいのか教えてほしい。

《考えよう》

♪保護者に自分の考えや行動・気持ちをわかってもらうためには、どのようなかわり方をすればいいだろう。

★親に望むこと

★自分の行動

くまもと「親の学び」プログラム次世代編

自立を育むコミュニケーションプログラム

作成検討委員

- 赤星 美智子 (甲佐町主任児童委員)
- 古賀 倫嗣 (熊本大学教育学部 副学部長)
- 柴田 恒美 (NPO法人子育て談話室 理事長)
- 田中 久美子 (熊本県私立中学高等学校振興協議会 代表)
- 中村 友花理 (熊本県公立高等学校PTA連合会 理事)
- 日吉 亜由美 (熊本県PTA連合会 副会長)
- 福島 三徳 (山鹿市立来民小学校 校長)
- 牧野 健二 (熊本県立甲佐高等学校 校長)
- 三角 幸三 (宇城市教育委員会 学校教育審議員)
- 柳 宗一郎 (八代白百合学園高等学校 校長)

職名は平成24年3月現在

★平成23年度「親の学び」講座 実践事例の紹介

※「親の学び」講座とは、

「親の学び」プログラムを活用した講座の通称です。

※実践事例は、熊本県教育委員会ホームページに掲載中です。

【熊本県教育委員会】→【家庭教育】→【くまもと「親の学び」プログラム】